

年末年始の本船荷役実績の傾向等について (2025.12.31～2026.1.4)

昨年(2025)は労使確認が整わず年末年始荷役が実施されなかったため、2年ぶりの実績調査となった。

1. 一昨年との比較

		一昨年	
◦年末年始荷役実施港	4 5 港	(6 1 港)	
◦荷 役 隻 数	4 7 2 隻	(7 6 2 隻)	2 9 0 隻減
(外航・内航の合計)			
内 訳			
コンテナ船	1 7 4 隻	(2 1 7 隻)	4 3 隻減
R O R O 船	1 9	(5 0)	3 1 隻減
自動車専用船	1 1	(1 0)	1 隻増
在 来 船	1 3 2	(2 4 0)	1 0 8 隻減
そ の 他 船	1 3 6	(2 4 5)	1 0 9 隻減

2. 傾向と要因

- ・年末年始荷役実施は、前回調査の一昨年と比べ16港減少している。
- ・隻数については、全国では290隻の減となり、調査を始めた2001年度以降最少となった。6大港では85隻の減、その他主要港と地方港では205隻減少している。
- ・船型については、コンテナ船が40隻以上の減少、RORO船は約30隻の減少(約60%減)、在来船とその他船がそれぞれ100隻以上減少した(約45%減)。
- ・日にち(曜日)別に見ると、12月31日は平日であったが、31日が日曜日であった一昨年の実績を下回った。1月4日については日曜日であったため、一昨年より大幅減となった。

3. 外航コンテナ船取扱個数の比較

- ・隻数、取扱個数ともに一昨年より減少したが、1隻当たりの取扱個数については増加した。
- ・コンテナ船174隻中、外航コンテナ船は173隻であり、隻数は一昨年の44隻下回り、取扱個数も約8万3000TEUと約1万3000TEU下回った。
- ・6大港のコンテナ船入港隻数は144隻(一昨年比21隻減)であるが、横浜港と名古屋港が隻数、取扱個数ともに微増した。
1船当たりの個数については、大阪港が一昨年以上回った。
- ・その他主要港と地方港では、隻数、取扱個数とも減少したが、1隻当たりの取扱個数は一昨年より増加した。
- ・中国航路船が全体の約46%を占めており、割合としては一昨年より微増した。

年末年始の本船荷役実績
(2025.12.31 ~ 2026.1.4)

(隻)

区分		コンテナ船	その他 〔RORO、自動車〕 〔在来船、その他〕	合 計
主 要 港	東 京	33 (33)	10 (3)	43 (36)
	横 浜	31 (30)	26 (15)	57 (45)
	川 崎	1 (3)	8 (17)	9 (20)
	名古屋	24 (21)	3 (17)	27 (38)
	大 阪	21 (32)	12 (28)	33 (60)
	神 戸	26 (36)	5 (19)	31 (55)
	関 門	8 (10)	0 (29)	8 (39)
	6大港計	144 (165)	64 (128)	208 (293)
そ の 他 主 要 港	千 葉	1 (0)	8 (20)	9 (20)
	清 水	8 (6)	0 (0)	8 (6)
	四日市	3 (6)	5 (5)	8 (11)
	博 多	5 (15)	0 (4)	5 (19)
	その他主要港計	17 (27)	13 (29)	30 (56)
11港計		161 (192)	77 (157)	238 (349)
その他の港湾 (34港)		13 (25)	221 (388)	234 (413)
合 計 (45港)		174 (217)	298 (545)	472 (762)

注) 1. ()内の数値については一昨年実績
2. 数値は、外航船、内航船の合計値